

令和2年度予算がまとまりました

予算総額は25億1,047万円

健康保険料率は維持します
介護保険料率は引き上げます

当健保組合の令和2年度予算が次のとおりになりましたので、お知らせいたします。

健保を取り巻く状況

日本は急速に少子高齢化が進行しています。令和元年版『高齢社会白書』によると65歳以上の高齢者人口は3,558万人で、過去最高となりました。また、高齢者の総人口に占める割合は、1950年では4・9%でしたが、2018年には28・1%にまで上昇しています。実に4人に1人以上が高齢者となっています。

加齢に伴い病気のリスクが上昇するため、国民医療費は年々増加し続けています。全国の健保組合は、高齢者医療制度に対して納付金を拠出して、財政的に支えています。しかし、社会の高齢化に伴い拠出額は増加傾向にあり、制度を支える側である健保組合自身が、厳しい財政状況で苦しんでいます。

幸い、当健保組合の令和2年度予算は、経常収支で黒字の予算を編成することができました。しかし、2022年(令和4年)以降は、団塊の世代が後期高齢者へ移行することから、納付金への拠出額増加が懸念されます。

また、介護保険については、介護納付金が増加しているため保険料率を引き上げさせていただきます。

令和1年度着地見通し

令和1年度総収入は予算2,091百万円より38百万円多い2,129百万円となる見込みです。

総支出は、予算2,091百万円よりも813百万円少ない1,278百万円となる見込みです。従って、令和1年度の繰越金618百万円より41百万円多い659百万円を令和2年度へ繰り越す予算としていましたが、さらに191百万円多い850百万円を繰り越せる見込みです。

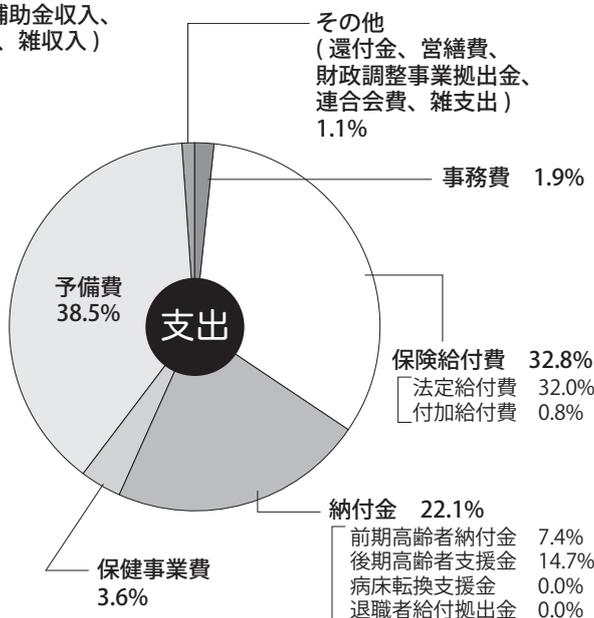
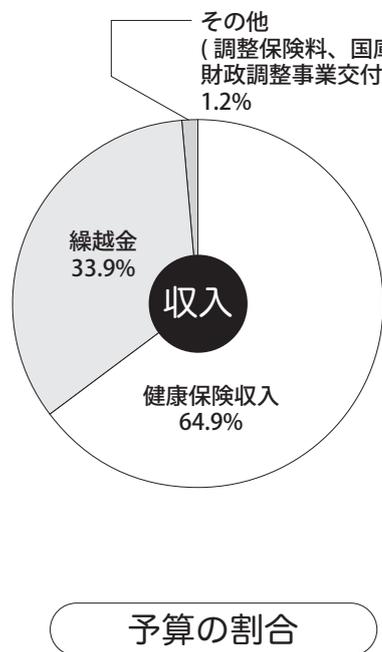
令和2年度保険料率

高額医療費が前期高齢者に発生すると、追加徴収で翌々年度の納付金額が一気に跳ね上がります。その支払いのために平成29・30年度は保険料率を上げさせていただきましたが、令和1年度から元の9・4%に戻しています。令和1年度のここまでの推移では、追加徴収は発生しない見込みです。従って保険料率は前年度と同率の9・4%で変更ありません。

令和2年度予算

令和1年度は、被保険者数3,546名、平均標準報酬月額331,621円、賞与総額1,809百万円、保険料収入は1,437百万円の予算でしたが、ここへ被保険者数の増加等を見込んで令和2年度予算を編成しました。

令和2年度は、被保険者数4,049名、平均標準報酬月額319,981円、賞与総額2,352百万円



令和2年度予算概要<一般勘定>

●収入 (千円)			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
健康保険収入	1,630,193	1,437,788	192,405
└ 保険料	1,629,679	1,437,336	192,343
└ 国庫負担金収入・他	514	452	62
繰越金	850,862	618,413	232,449
調整保険料	22,864	20,481	2,383
国庫補助金収入	154	104	50
財政調整事業交付金	5,000	12,000	-7,000
雑収入	1,403	3,011	-1,608
合計	2,510,476	2,091,797	418,679

●支出 (千円)			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
事務費	48,308	41,193	7,115
保険給付費	824,244	784,917	39,327
└ 法定給付費	803,953	765,736	38,217
└ 付加給付費	20,291	19,181	1,110
納付金	556,129	500,051	56,078
└ 前期高齢者納付金	186,960	176,198	10,762
└ 後期高齢者支援金	369,156	323,822	45,334
└ 病床転換支援金	2	2	0
└ 退職者給付拠出金	11	29	-18
保健事業費	90,357	83,815	6,542
還付金	2	2	0
営繕費	1,301	1,001	300
財政調整事業拠出金	22,864	20,481	2,383
連合会費	1,032	965	67
雑支出	200	200	0
予備費	966,039	659,172	306,867
合計	2,510,476	2,091,797	418,679



令和2年度予算概要<介護勘定>

●収入 (千円)			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
介護保険収入	94,875	82,097	12,778
繰越金	4,000	3,841	159
繰入金	0	147	-147
国庫補助金受入	1	1	0
雑収入	3	3	0
合計	98,879	86,089	12,790

●支出 (千円)			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
介護納付金	89,724	82,989	6,735
還付金	1	50	-49
積立金	0	0	0
雑支出	2	2	0
予備費	9,152	3,048	6,104
合計	98,879	86,089	12,790

資産と支払余裕金の推移

健康保険組合の資産は、法定準備金、任意積立金、支払余裕金の形で保有しています。平成30年度決算時点では、法定準備金200百万円、任意積立金206百万円、支払余裕金618百万円で、合計1,024百万円でした。

令和1年度決算時点では、法定準備金200百万円、任意積立金206百万円は変わらず、支払余裕金850百万円で、合計1,256百万円の見込みです。

令和2年度の決算時点では、法定準備金200百万

円、任意積立金206百万円は変わらず、支払余裕金966百万円で、合計1,372百万円の見込みです。経常支出合計1,520百万円の約10ヶ月分程度の資産を保有できる見込みです。

令和1年度着地は、収入合計が予算86,089千円より2,475千円多い88,564千円となり、支出合計が82,989千円となる見込みです。(なお、収入増は被保険者数および総収入が予算より高く推移した結果であるため、その分については令和3年度に追加徴収が発生します。)

この残金5,575千円のうち1,575千円を準備金に繰り入れ、残り4,000千円を令和2年度へ繰り越す予定です。

令和2年度から介護納付金の算定方式が全面総報酬割となり、健康保険組合の負担が増えています。また介護保険被保険者一人当たり負担額も高齢化に伴い毎年右肩上がりで増加しています。令和1年

介護保険

度介護納付金は前年度から1000万円超増加しましたが、令和2年度も前年度から700万円増加しました。

そのため令和2年度は料率を1.64%から1.74%へ上げさせていただきます。なお、協会けんぽでは1.73%から1.79%へ変更しています。

令和2年度は、介護保険収入94,875千円で、納付金支出89,724千円をまかない、令和3年度へ9,152千円繰り越す予定です。

当健康保険組合は、今後も医療費削減のために、ジェネリック医薬品の使用促進、医療費通知の実施、レセプト点検、被扶養者資格確認、柔道整復師療養費適正化およびレセプト情報や特定健診・特定保健指導の結果に基づき疾病予防・早期発見・早期治療への取り組み等を推進していきます。また事務やシステムの合理化をすすめ経費削減に努めてまいります。限りある保険料収入を効率的に活用して、みなさまの健康と安心を支えてまいります。